

# 序

岡山県南部のほぼ中央に位置する総社市は、瀬戸内特有の温暖な気候に恵まれ、地震や台風などによる災害も少なく、晴天に恵まれた「晴れの国岡山」を代表する地域であります。

本市では「平成の大合併」に伴い平成17年3月22日に旧総社市、山手村、清音村が新設合併し「新総社市」が誕生しました。それと同時に、合併に伴う市域の拡大により文化財も増加いたしました。

総社市はかつて「吉備」と称された中心地域であり、人、物、情報の大動脈である瀬戸内海とも近く、古来より吉備文化の中心地として栄え、市内の「吉備路風土記の丘」には、こうもり塚古墳や備中国分寺をはじめとする顕著な遺跡が、昔日の栄華を物語っています。また総社平野の北側に広がる吉備高原の一角には、「北の吉備路」として親しまれている市内奥坂、黒尾地区に、年間3万人以上もの観光客が訪れる古代山城の「鬼ノ城」が位置しております。

鬼ノ城は昭和46年に発見され、その7年後には鬼ノ城学術調査団により初めて城域が明らかとなり、城壁の規模や水門などの遺構も判明しました。本市では鬼ノ城の保存と保護を図るとともに、この優れた文化財を一般に公開し永く後世へ伝えていくことを使命とし、文化財と自然環境が融合した野外博物館という位置付けのもとで現在史跡整備を進めています。しかし、整備を施行するには遺跡の実態が未だ不明で、先学の基礎調査を土台としてさらに鬼ノ城の実態解明と基礎資料を得る必要があるため、平成6年度から数々の調査を実施してきました。

本書は平成6年度に発掘調査を実施した東門と、平成16年度に第1水門の貯水池や城外に築かれた土塁状遺構の調査成果を取めたものです。今後の文化財の保護と活用、史跡整備の基礎資料並びに歴史研究の一助になることができれば幸甚と存じます。

最後になりましたが、発掘調査と史跡整備の実施にあたり鬼城山整備委員会の先生方、並びに文化庁、岡山県教育委員会には多大な御指導を賜りました。また、岡山県備中県民局農林事業部農林課、岡山県生活環境部自然環境課には温かいご理解と御協力をいただくと共に、発掘調査では多くの皆様に参加いただきました。あらためまして関係各位に厚く感謝の意を表します。

平成18年3月

総社市教育委員会

教育長 栞 田 交 三